

氏名 正 木 善 告

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博 乙 第 2194 号

学 位 授 与 の 日 付 平成 2 年 12 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 Importance of attitude evaluation in diabetes patient education

(糖尿病患者教育に於ける態度評価の重要性)

論 文 審 査 委 員 教授 木村郁郎 教授 辻 孝夫 教授 青山英康

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

知識と行動との間に介在する態度の変容に注目し、糖尿病自己管理に於けるその重要性を明らかにしようとした。自分の病気に対する責任感の程度の点から患者の態度を 5 段階評価した、Personal Responsibility Assessment System を用いて糖尿病患者 59 例の態度を測定した所、40 歳未満群は 40 歳以上群に比して態度レベルの低い例（レベル 1－4）が多かった。このため、以下 40 歳以上の 50 例について検討した。態度レベルの低い群（レベル 1－4）は高い群（レベル 5）に比して罹病期間 10 年以上の例が多かった。非インスリン治療群では、前者は後者に比して HbA_{1c} 値が高く、網膜症を有する例が多かった。また、女性では、前者は後者に比して果物、肉／魚、野菜の摂取量が少なく、脂肪、甘味料の摂取量が多かった。以上の結果は、患者の病気に対する態度と糖尿病管理との間に関連があること、病気への適応という側面から態度を測定した PRAS は妥当性があり臨床的に有用であることを示唆しており、態度把握は教育学的介入をより効果的に行うために重要であるものと考えられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は糖尿病患者教育における態度評価の重要性について臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった糖尿病自己管理における知識と行動との間に介在する態度の変容に注目した結果、態度レベルの低い例は長い罹病期間、HbA_{1c} 値の高位、網膜症などを有する例に多く、本病に対する態度と本病管理との間に関連を認め、その把握は教育学的介入をより効果的に行う上に重要な知見であり、価値ある業績であ

ると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。